

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
井上剛伸	第1編 基礎—機能解析と設計思想— 第2章 設計思想 第1節 オーフアンプロダクツ	井上剛伸	ヒトの運動機能と移動のための次世代技術開発—使用者に寄り添う支援機器の普及に向けて—	株式会社 エヌ・ティ・イー・エス	東京	2014	31-36
硯川潤	コラム 福祉機器開発プロセスの新潮流	井上剛伸	ヒトの運動機能と移動のための次世代技術開発—使用者に寄り添う支援機器の普及に向けて—	株式会社 エヌ・ティ・イー・エス	東京	2014	47-50

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
硯川潤	福祉機器の開発・評価支援手法	かながわロボットミーティング I 「介護・医療ロボット」フォーラム			2013
浜田素子, 硯川潤	ユーザ参加ワークショップによるニーズ抽出と機器開発の試み ～排泄問題ワークショップ2012 開催報告～	第28回リハ工学カンファレンス講演論文集		145-146	2013
足立寛一, 硯川潤	参加型デザインを用いたベッド上排便のための消臭ゲルの開発	第28回リハ工学カンファレンス講演論文集		211-212	2013
硯川潤	ユーザー視点から構想する技術開発のあり方—福祉機器開発の場合—	コミュニティ工学フォーラム2013			2014

#### IV. 資料

#### IV. 資料目次

1. 第12回福祉工学カフェ 開催要項	----- 57
---------------------	----------

# 福祉工学カフェ

Assistive Technology cafe

## 第12回

テーマ：福祉機器開発とユニバーサルデザインとの関係性

～聴覚障害を例としたコミュニケーション支援技術とは何か～

共催：国立障害者リハビリテーションセンター 研究所

(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)

<日時> 2014年2月24日(月) 13:05 - 16:50 (12:35 開場)

<場所> NEDO 分室 大同生命霞が関ビル12F (千代田区霞が関1-4-2)

### <プログラム>

13:05 - 13:10 福祉工学カフェの趣旨説明

13:10 - 13:25 話題提供 渡辺 儀一様

13:25 - 13:40 当事者発表1 長野 裕美様

13:40 - 13:55 当事者発表2 瀬川 由紀子様

13:55 - 14:10 当事者発表3 岡田 浩彰様

14:10 - 14:20 小休憩

### <第一部 テーマ毎討論>

14:20 - 14:55 1. 聴覚補償と情報保障のコンフリクトーグラハム・ベルから人工内耳まで  
大沼 直紀氏

東京大学先端科学技術研究センター

14:55 - 15:30 2. モバイル型遠隔情報保障システムなどの通信技術を利用した手法による  
情報保障の機会拡大について

三好 茂樹氏

筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター

15:30 - 15:45 休憩

### <第二部 フリーディスカッション>

15:45 - 16:45 フリーディスカッション

16:50 終了

## <講演者紹介>

大沼 直紀 氏:

東京大学先端科学技術研究センター

特任研究員

略歴:

1965年 東北大学教育学部卒業 卒業

1965年 宮城県立聾学校教諭

1980年 ワシントン大学医学部附属中央聾研究所(CID)研究生

1984年 国立特殊教育総合研究所 難聴教育研究室長

1988年 筑波技術短期大学 教授

1994年 博士号取得(医学 昭和大学)

2003年 筑波技術短期大学 学長

2005年 国立大学法人筑波技術大学 学長

2009年 東京大学先端科学技術研究センター 客員教授

2012年 東京大学先端科学技術研究センター 特任研究員

概要:

電話器の発明者としてのグラハム・ベルは、聴覚障害者のコミュニケーション指導のための「視話法」を開発し口話教育を発展させるなど聾・難聴児の教育者としての貢献も大でした。ところがその後、聴覚障害児に対する発音指導や聴能訓練の厳しさへの反発が生まれ、「ろう文化」や「手話」による教育が広まると、「聴覚口話法」への批判と併せて、「ろう者の敵はベル」とまで言われてしまいます。19世紀以前からあった「手話口話論争」は、今に至っても古今東西繰り返されている感があります。聴覚障害児を生んだ親は誰もがクリティカルな選択の悩みを抱えることになります。手話による教育が良いのか、残存聴覚を活用する教育が良いのか、聾学校か通常の学校か、情報保障は手話通訳か要約筆記か、教室ではFM補聴器と磁気ループ補聴システムのどちらを使うべきか……。更に、「人工内耳」が出現したことにより、様々な聴覚障害問題をめぐる衝突・対立・葛藤(内なるパリアフリー・コンフリクト)は顕著になりました。聴覚障害者へのコミュニケーション支援に関わろうとする者は、「聴覚補償」と「情報保障」の両方をよく理解して課題にアプローチすることが大事です。

三好 茂樹氏:

筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター

障害補償システム開発研究部門(聴覚障害系)

准教授

略歴:

1998年 北海道大学 大学院 工学研究科 博士課程 生体工学専攻 修了

博士(工学) 取得

1998年 筑波技術短期大学教育方法開発センター 助手

2004年 国立大学法人筑波技術短期大学障害者高等教育センター  
(障害者支援研究部門) 助教授

2005年 国立大学法人筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター  
(障害者支援研究部) 助教授

2007年 国立大学法人筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター  
(障害者支援研究部) 准教授

概要:

通信技術を利用した遠隔情報保障によって、さまざまな理由で従来では導入が容易ではなかった局面で、情報サービスができるようになってきました。本報告では、最近の遠隔情報保障のトピックスを実例を踏まえながら紹介します。

---

渡辺 儀一氏:

略歴:

1989年 富士通株式会社入社

                  ホストコンピューターのオンラインシステム開発

1994年 官公庁向け文教市場チャネル営業

1996年 SE 会社に出向(アクセシビリティ推進 SE)

1999年 電子設計会社に常駐(邦画字幕配信システムの営業)

2000年 本体に帰任

                  ユニバーサルデザインに関する商品企画

以降、ユニバーサルデザインに関するマーケティング

---

長野 裕美氏:

略歴:

1994年 建設メーカー入社

                  本社にて施工図作成、各種詳細図調整の現場支援業務

2000年 現場事務所常駐、施工図・製作図調整業務

以降、事務所・ホテル・教育施設等の建設現場事務所常駐勤務

---

瀬川 由紀子氏:

略歴:

2004年 情報通信業に入社

                  航空管制システム開発業務

2006年 羽田空港国際線システム開発

2008年 自動車メーカーに転職  
米国市場調査担当

2010年 日本市場調査担当  
以降、現在に至る

---

**岡田 浩彰氏：**

略歴：

2005年 富士通株式会社入社

2006年 プログラムテストツールの開発

2008年 グループ会社へ出向(Java 開発専門の SE)

2013年 本体へ帰任

以降、製品の商談支援活動、その他

